

2025年度 大学入学共通テスト 数学ⅡBC(本試験) 分析

試験時間 70分

難易度	出題分量	出題傾向
変化なし 大問による難易度の差はあまりなく、誘導も丁寧であったため、比較的解きやすい問題であった。	増加 選択問題が増え、それに伴い問題数が増えている。ただ、試作問題から考えると減少している。計算量は多くないものの、文章量は少なくないので、設定を理解するのに時間を要しただろう。	変更あり 新課程となり、第1問～第3問は必答、第4問～第7問は3題選択の計6題を解かなければならなくなった。それに伴い、試験時間も70分に変更された。第7問の複素数平面をはじめ、目新しい内容が増えた。
<p>総評</p> <p>新課程初年度ということで、大問数の増加、選択問題が数学 B および C から出題、試験時間の増加といった目新しい変更であった。一部問題文が長く、分量こそ多く感じるが、どの設問も標準的なレベルであり、複雑な計算がほとんどないため、解き進めやすい内容であったと思われる。</p>		

大問別分析

大問	出題分野・テーマ	配点	設問別分析
第1問	三角関数	15点	座標平面上における三角関数の扱いであった。誘導は丁寧であるが、この内容を苦手とする受験生は少なくないので、意図を掴むのに時間を要したかもしれない。
第2問	指数・対数関数	15点	水槽の水草の量について、対数関数を利用して維持したい水草の量を求める問題。文章量が多く、解釈に手間取る内容であった。
第3問	微分積分	22点	共通の導関数を持つ2つの関数について、極値の条件からグラフの選定、積分の式との関係を考える問題であった。計算量は少ないが、式の意味を考える必要があり、少し戸惑う設定と感じたかもしれない。
第4問	数列	16点	格子点をテーマとする問題で、与えられた関数から等差数列・等比数列の和を利用した格子点の個数を求める内容であった。

第5問	統計的な推測	16点	正規分布や二項分布、母平均の信頼区間、仮説検定に関する問題で、基本的な事をしっかり行えば解ける内容であった。(3)は仮説検定の知識が問われたため、慣れていない受験生はやややりづらいと感じるが、全体として解きやすい設定であった。
第6問	空間ベクトル	16点	球面上の3点が正三角形となる条件を考える問題で、具体的な数値で考えさせてから、条件を求めさせる丁寧な誘導であった。計算量は少ない。
第7問	複素数平面	16点	複素数平面上における2直線が垂直に交わる条件から、指定された点が描く図形を選ぶ内容であった。偏角についての誘導もあり、何をすべきか進めやすい問題設定であった。

1・2年生へのワンポイントアドバイス

新課程ということで、昨年までと大きく変化した。問題数も多く、幅広い内容であるが昨年同様難易度は高くない。きちんと勉強してきたかどうかで差がはっきりする内容であるから、教科書をきちんと理解し、しっかりと問題演習をして基礎学力を身に付けよう。また、計算量が比較的少ない設定であったが、あくまでも計算力がある人から見るとであり、基本問題を手早く解ける計算力は絶対に必要である。日々の練習と文章量にも慣れるため、時期を見て共通テストの予想問題などでしっかり練習を積みたい。